

令和8年度 合言葉

心ときめくチャレンジ教育

野洲市立北野小学校 学校だより

令和8年度 号外

令和8年9月14日発行



R 8 学学調査分析

令和8年度(2026 年度)全国学力・学習状況調査の概要 野洲市立北野小学校

【国語科】

(全体をとおして)正答の平均値が高く、ばらつきも小さい傾向が出ました。つまり、正答と誤答の偏りが小さく平均値に集まっていました。

(強みになるところ)「苦手でも好きなことがある」といった文章を読み取り、自分に置き換えた場合をとらえるなど、目的に応じ、必要な情報を見いだす力が身に付いています。

(強みになるところ)文章全体から考えられることを、自分の経験をもとにまとめる問いに対し、条件をはずすことなく、的確に書くことができます。

(課題となるところ)読んだ文章の種類や書き方といった文の特徴をとらえることには課題が見られました。

【算数科】

(全体をとおして)正答の平均値および中央値がきわめて高かったです。また、そのばらつきは全国と似た傾向となりました。つまり、北野小学校の子どもたちの正答や誤答のかたよりが全国と似た結果となりました。

(強みになるところ)直方体を形づくる6面のうち、示された2面の縦と横の長さをとらえるなど、直方体の面と各辺の長さなどに着目した学びが十分に身に付いています。

(強みになるところ)示された表をもとに、あやとりに参加する人数と、かるたに参加してあやとりにも参加する人数を整理するなど、「調べ方と整理のしかた」の学びが十分に身に付いています。

(課題となるところ)1, 5, 9の数字カードをどう並べると大きな小数になるのかといった、小数の大小を見分けることには課題が見られました。

質問紙調査について

○基本的な生活習慣に関わる項目について、本校は国県比較で高い実態が見られました。

○困りごとを先生に相談できると答えた割合が、本校は国県比較で高い傾向が見られました。

▲学校での ICT の活用について国県比較で低い傾向でした。次年度の学学調査はタブレットを使って実施することが決まっています。操作による不利益が出ないよう、適切な活用に努めます。